日本の輸出構造分析（1）
数量指向型輸出と価格指向型輸出

大木　博巳 *Hiromi Oki*
（一財）国際貿易投資研究所　研究主幹

要約

日本の輸出は、輸出価格帯でみると2 極分化している。低価格帯（輸出単価が1 万円未満の輸出品目）と高価格帯（同100 万円以上の輸出品目）。日本の輸出に占める低価格帯の輸出シェアは、2013 年で57.3％、高価格帯は24.1％。

低価格帯の輸出は鉄鋼、化学、電気機器や輸送機器などの機械部品、食料品、繊維などが主な輸出品目である。これらの低価格帯の輸出は、数量の規模が輸出金額に影響することから数量指向型の輸出といえる。

高価格帯は一般機械、精密機械、自動車等の輸送機器が主力である。これらの輸出は、数量を確保しつつ高い価格で輸出をするタイプの価格指向型の輸出である。

貿易指数（輸出数量、円建て輸出価格）の長期的推移をみると、日本の輸出は数量の拡大が牽引力となっていた。

はじめに

貿易統計における数量は、重量表示が基本である。どのようなモノでも測ることができるので重量が最も普遍的な表示形式である。商品によっては、取引に使われるのは数量糸や容積糸のものである。そこで取引に使われる単位を数量に使うものが多い。さまざまな大きさが混在する大型機械など

は「〇〇台」というより機械の業界で「〇〇トン」ととらえた方が貿易実態の把握には役立つ場合もある。その重量を含めた数量に単価をかけたものが貿易金額となる。通常、貿易構造を分析する際には、金額をベースとして商品や国の動向を論じている。国際取引を行っている実務家にとっては、金額ベースの取引よりは、日々の数量ベースの荷動きが気になる。

本稿では、輸出単価をベースとして日本の輸出構造を分析する。輸出単価をベースとした分析は、その裏には、数量の動きが隠れている。単価と数量の間には、一般的には、単価が高ければ輸出数量は小さくなる、逆に単価が低ければ数量で稼ぐという関係が認められる。勿論、例外もある。自動車である。日本の自動車輸出は単価の値も高く、かつ輸出数台数も大きい。単価と数量の両方で稼ぐことが日本の輸出のあるべき姿かも知れないが、当該産業の世界市場規模を考えると、業種は限られてくる。

本稿（今回）では、業種別に輸出単価の分布をみることで、日本の輸出が低価格帯の商品が多いのか、高価格帯の商品が伸びているのか、それを確認することである。日本の輸出構造の高付加価値化を考えるときに、より輸出単価が高い商品を輸出することが方向性の一つとなる。

次号では、輸出単価の国際比較である。ドイツ、米国、中国と比べて同じ分類に属する商品で価格が差別化されているのか、どうか分析をしてみる。特にドイツと日本の比較を行い、輸出産業の価格指向を進めるには何をすべきかについて考えてみる。

日本の輸出品目数（HS6 ケタベース）の業種別内訳

2013 年の日本の円建て輸出金額は 69 兆 7741 億 9300 万円である。輸出品数は HS6 ケタベースで見て 4671 品目、この 4671 品目のうち輸出数量データが把握できた品目数は 4639 品目あった[i]。輸出数量の単位は、KG、トン、リットル等の容量、NO（台数、個）等の重量系、ダース、Th（千個）などの個数など様々である[ii]。

4639 品目の主要業種別品目数の内訳は、化学品が 910 品目、繊維・同製品が 758 品目、食料品が 491 品目、一般機械が 499 品目、鉄鋼 289

http://www.iti.or.jp/

品目、電気機械が 270 品目、雑製品 203 品目、精密機械 197 品目、輸送機器が 136 品目などなっている。

輸出品目数は、業種によって大きく異なる。品目数が最大の化学品では、有機・無機化合品、医薬品、染料、化粧品、プラスチック、ゴムなど多様な産業を抱えていることから品目数は多くなる。繊維や鉄鋼は、素材、用途別に品目が細かく分類されている。食料品も農産物、水産物、飲料など種類が多いことや貿易手続き上の問題や加工度合（冷凍・冷蔵、加工食品など）ごとに細分化されている。

機械機器は、世界貿易における主要商品として取引額や数量が大きい。一般機械（HS84）は、多様な製品分類。製造・生産などに欠かすことの出来ない工作機械、研削盤、航空機エンジン、ポンプ、食品加工機器、冷蔵・冷凍庫、洗濯・洗浄機、半導体ウエハーの製造装置など種類が多い。自動車やデジタル家電、通信機器などの世界市場で大量販売されている商品やこれらの完成品を生産するための電子部品や自動車部品などの部品の取引も盛んである。また、日本の場合、直接投資による海外生産が拡大しているため、日本から海外の生産拠点向けに機械部品や資本財の輸出が多いこともその理由として指摘できる。

価格帯別輸出品目と輸出金額の分布

次に輸出数量データが把握できた 4639 品目の輸出単価[iii]を求めて、輸出単価帯別業種別品目数、輸出金額を取りまとめたのが表－1 である。

輸出価格帯は輸出単価を 12 の価格帯（1000 円未満、5000 円未満、…10 億円以上に分類）に区分し、便宜的に単価が 1 万円未満を低価格帯、1 万円以上から 50 万円未満を中低価格帯、50 万円から 100 万円未満を中価格帯、100 万円以上を高価格帯、1 億円以上を超高価格帯と呼ぶことにする。

表－1 から、日本の輸出で、輸出品目数が最も多い価格帯は 1000 円未満が 1862 品目、次に 1000 円以上～5000 円未満が 1229 品目、5000 円以上～1 万円未満が 398 品目、1 万円以上～2 万円未満が 258 品目、2 万円以上～5 万円未満が 216 品目、100 万円以上～1000 万円が 200 品目とな

http://www.iti.or.jp/

っている。超高価格帯の10億円以上の輸出品目は7品目ある。

HS6ケタベースでの日本の輸出品目は、輸出価格が5000円未満の品目で全体の7割弱を占め、日本の輸出のマジョリティを形成している。これに5000円以上～1万円未満の輸出品目を加えると日本の輸出品目全体の74.5%に達する。業種別にみると、化学品、鉄鋼、食料品、繊維・同製品の輸出品目の9割以上が5000円未満の品目である。輸出価格が1,000,000円以上の品目数は、機械機器が大半を占めている。

同様に、日本の輸出金額（円建て）について、価格帯別にみると、輸出価格が1000円未満の輸出金額が18兆5978億円で第1位となっている。次に1000円以上～5000円未満が15兆8435億円、100万円以上1000万円未満が12兆6084億円、5000円以上～1万円が5兆5584億円、2万円以上～5万円未満が3兆1659億円と続いている。

表－１　日本の輸出（輸出価格帯別業種別）

単位：金額100万円

価格帯		総額	機械機器	一般機械	電気機器	輸送機器	（自動車）	精密機器	化学品	食料品	雑製品	繊維及び同製品	貴石・身辺用細貨	鉄鋼
単価不明	品目数	32	31	0	0	0		0	8	9	0	0	0	0
	金額	134.7	0	0	0	0		0	8.823	6.3	0	0	0	0
～1千円未満	品目数	1862	118	23	64	7		24	488	257	47	338	5	208
	金額	18597816	7053494	1205382	4763747	769862		314503	4216030	266963	304833	611218	1322	4401515
～5千円未満	品目数	1229	184	75	55	26		28	247	172	60	223	1	69
	金額	15843587	7400500.2	2487410.5	1177927.8	2828062.9		907099	2993330	133983.4	188222.6	181955.4	10284.9	335053.2
～1万円未満	品目数	398	104	41	42	7		14	73	29	31	79	1	9
	金額	5558419.4	4077248.7	1717550.9	1916866.5	41145.2		401686.1	1156102	6516.4	67792.4	21517.2	61.14	16287.9
～2万円未満	品目数	258	92	29	28	1		34	26	7	22	65	5	2
	金額	2670686.5	2163475.4	591437.94	692033.69	2245.8		877757.9	251653.9	6012.304	19411.08	13853.4	39284.6	4651.201
～5万円未満	品目数	216	86	33	22	5		26	20	7	18	40	8	1
	金額	3165998.8	2722101.8	793707.51	1232461.6	16964.6		678968.1	96719.7	32066.7	35968.01	7338.808	146875.7	2949.0
～10万円未満	品目数	101	48	16	10	3		19	16	5	9	4	2	
	金額	2969264.3	1158392.5	252960.41	167625.82	418966.61		318839.7	347702.8	3288.351	11684.61	11.756	10962.81	
～50万円未満	品目数	184	121	63	21	13	3	24	20	2	8	9	11	
	金額	2580559.2	2397360.4	1834106	309317.64	134665.2	40501.918	119271.5	85995.6	21.999	19369.86	347.25	76410.4	
～100万円未満	品目数	74	62	27	5	20	7	10	4		4		3	
	金額	1627855.8	1355645.7	126524.91	17644.1	1106844.7	896034.64	104632	244274.3		11335.53		16332.46	
～1千万円未満	品目数	200	172	109	14	36	22	13	6	4	4		13	
	金額	12608410	11801480	1921931.3	164714.13	9577678.4	9250117.5	137156.7	38800.2	560.292	23917.68		743648.1	
～1億円未満	品目数	102	100	77	7	11	3	5	2					
	金額	2508289.8	2505488.4	2147583.3	91555.6	108923.34	83363.974	157426.2	2801.4					
～10億円未満	品目数	8	8	3	2	3								
	金額	64483.8	64483.752	6135.2	31795.5	26553.0								
～10億円以上	品目数	7	7	3		4								
	金額	1578688.4	1578688.4	111962.18		1466726.3								
合計	品目数	4671	1133	499	270	136	35	197	910	491	203	758	49	289
	金額	69774193	44278360	13196692	10565690	16498638	10270018	4017340	9433418	449418.4	682535.1	836242.3	1045182	4760456

資料：GTAデータより作成

業種別では、化学品や鉄鋼、食料品の輸出は、1000 円未満、5000 円未満の価格帯を合わせた輸出が、それぞれ輸出の 9 割を占める。

機械機器では一般機械や輸送機器、精密機器が比較的輸出単価が高い価格帯の輸出が大きい。一般機械では、輸出金額が最も大きい価格帯は 1000 円以上～5000 円未満の 2 兆 4874 億円、次に 1000 万円以上～1 億円の 2 兆 1475 億円。輸送機器は 100 万円～1000 万円未満が 9 兆 5776 億円、1000 円～5000 円未満が 2 兆 8280 億円となっている。ただし、電気機器の輸出金額は、1000 円未満の価格帯で 4 兆 7637 億円、次いで 5000 円～1 万円未満では 1 兆 9168 億円と低価格帯での輸出が 6 割近くを占めている。

2 極分化する日本の輸出

輸出価格帯別業種別日本の輸出を過去の年次と比較したのが図－1 である。輸出価格帯別輸出の視点で見ると 1995 年、2001 年、2009 年、2013 年のいずれをとっても、低価格帯と高価格帯の輸出が突出しており、2 極分化が深まっている。

2 極分化の一つの山は輸出価格帯が 1000 円未満および 1000 円以上～5000 円未満、5000 円以上～1 万円未満の輸出である。もう一つの山が 100 万円以上～1000 万円未満の輸出価格帯である。この 1995 年と 2013 年の輸出額（円建て）を比較すると平均で 1.7 倍増に拡大している。

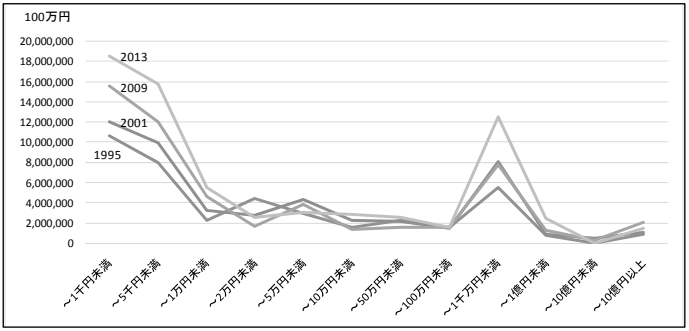
これを輸出価格帯別にみると、1000 円未満の品目の輸出額は、1995 年の 10 兆 7077 億円から 2013 年には 18 兆 5972 億円と 1.7 倍増。1000 円以上～5000 円未満の品目の輸出では、1995 年の 8 兆 750 億円が 2013 年には 15 兆 8435 億円と 2.0 倍増。また、5000 円以上～1 万円未満も 2.4 倍増と拡大している。

他方、100 万円以上～1000 万円未満の品目の輸出金額は、1995 年の 5 兆 5367 億円から 2013 年には 12 兆 6084 億円と 2.3 倍。また 1000 万円以上～1 億円未満も 2013 年には 3.1 倍と拡大している。

表－２は、輸出単価を低価格、低中価格、中価格、高価格、超価格に分類してそれぞれの輸出金額の割合（輸出額に占める）を求めたものである。

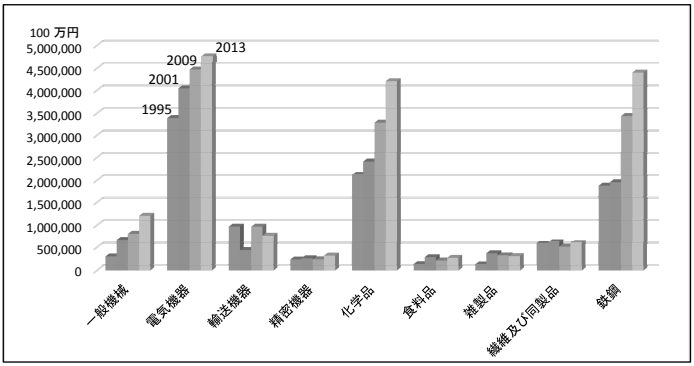
http://www.iti.or.jp/

図－１　輸出単価別輸出金額（円建て）



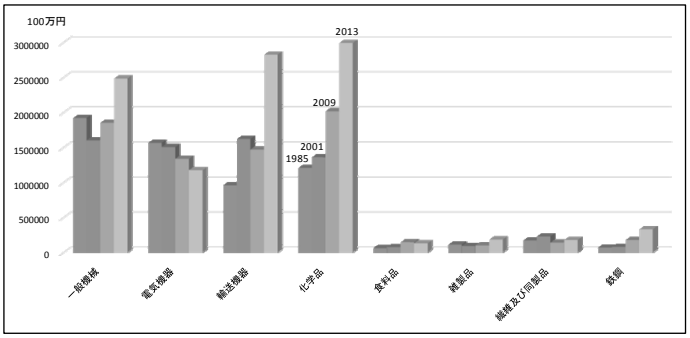
資料：表－1 に同じ

図－２　輸出単価 1000 円未満の業種別輸出額



資料：表－1 に同じ

図－３　輸出単価 1000 円以上 5000 円未満の業種別輸出額



資料：表－1 に同じ

第 1 に 2013 年で日本の輸出の 57.3％が低価格帯に属し、その割合は 95 年時点と比べて拡大しているが、リーマンショック後の 2009 年と比べると割合は低下している。

低価格帯の輸出は次のような特徴がある。

① 輸出単価が 1000 円未満の輸出では、2013 年で電気機器、化学品、鉄鋼の 3 業種で輸出の 72％を占めている。輸出金額では電気機器が 4 兆 7637 億円（輸出の 25.6％）、鉄鋼が 4 兆 4015 億円（23.7％）、化学品が 4 兆 210 億円（22.7％）となっている。電気機器の輸出は、主に電子部品が担っている。例えば、半導体等電子部品の輸出を見ると、記憶素子、増幅器、プロセッサー、半導体デバイス、集積回路の部分品などが主な輸出品。輸出単価は、2009 年と比べて低下しているが、輸出数量は拡大している。

② 輸出単価が 1000 円以上～5000 円未満の輸出では、化学品、輸送機器、一般機械が上位 3 業種。

③ 95 年との比較では、輸出単価が 1000 円未満の輸出では、電気機器、鉄鋼、化学品の輸出は拡大基調にある。輸送機器や精密機器は横ばい。また、1000 円以上～5000 円未満の輸出では輸送機器と化学品の輸出が拡大している。

④ 低価格帯の最大の輸出業種は化学品である（図－4）。1000 未満では HS コード「第 29 類　有機化学品」、「第 40 類　ゴム及びその製品」。5000 円未満では「第 39 類　プラスチック及びその製品」「第 32 類　なめしエキス、染色エキス、タンニン及びその誘導体、染料、顔料その他の着色料」などが主な輸出品目である。

第 2 に中低価格帯の輸出金額の割合は 95 年と比べて大幅減少している。また、中価格帯の割合も 95 年と比べて微減し、中価格帯の輸出は停滞している。この価格帯では、エレクトロニクス機器の輸出不振が停滞を招いているものと思われる。特に 2001 年以降に中低価格帯の割合が急落しているのは、通信機器、薄型

http://www.iti.or.jp/

テレビ、DVD 等のデジタル家電製品の競争力喪失（世界市場におけるシェア縮小）が影響しているものと考えられる。

第 3 は 100 万円以上～1 億円以下の高価格帯の輸出割合は高まっているが、リーマンショック後において輸出は拡大している。高価格帯は自動車や一般機械が健闘している。自動車のように輸出単価を維持・上昇させつつ数量を伸ばすことができている。

表－２　輸出価格帯別輸出金額の割合

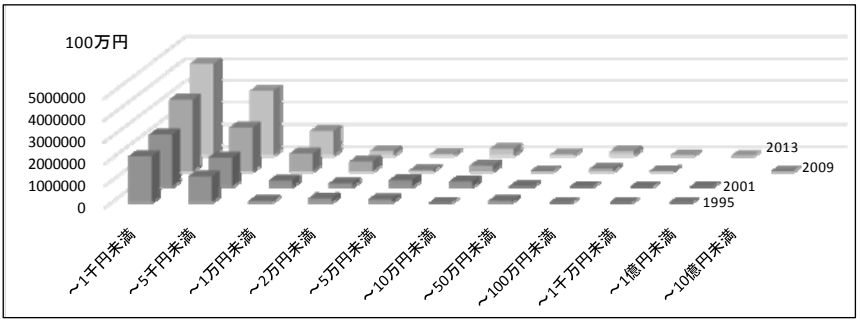
（%）

輸出価格/年次	1995	2001	2009	2013
低価格帯	50.7	51.7	59.5	57.3
中低価格帯	22.0	19.2	13.0	12.6
中価格帯	13.3	12.1	8.8	10.3
高価格帯	15.3	18.3	16.9	21.7
超高価格帯	2.5	3.3	4.5	2.4

注；低価格帯：1 円以上 1 万円未満　中低価格帯：1 万円以上 10 万円未満　中価格帯：10 万円以上 100 万円未満　高価格帯：100 万円以上 1 億万円以下　超高価格帯：1 億円以上

資料：表－1 に同じ

図－４　輸出単価別輸出額（化学品）



資料：表－1 に同じ

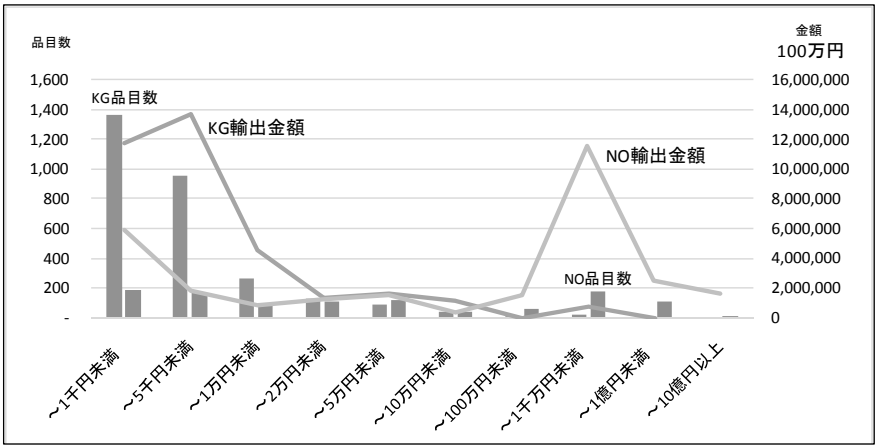
http://www.iti.or.jp/

数量指向型輸出と価格指向型輸出

2013 年の日本の輸出を重量単位の視点でみると、KG で輸出されている品目が最大の輸出金額となっている。KG で輸出している品目数は、2013 年で2952 品目、輸出品目全体の64%、輸出金額は 35 兆 5819 億円と輸出金額全体の 51%を占めている。

KG の輸出の特徴は、輸出単価が低い価格帯で品目数や輸出金額が大きいことである（図－5）。例えば、輸出価格帯が 5000 円未満の輸出における品目数は、KG で輸出している品目数が 77%を占めている。輸出金額では 74%になる。5000 円未満の輸出は、重量単位で KG の輸出が大宗を占めている。

図－５　重量単位（KG と NO）別輸出価格帯別品目数・輸出金額



資料：表－1 に同じ

KG の輸出に次いで輸出規模が大きいのは NO（個数、台数）で輸出している品目である。NO による輸出金額は、2013 年で、30 兆 70415 億円、輸出品目数は 1161 品目である。輸出価格帯の品目数は、1000 円未満が 181 品目、次に 100 万円以上～1000 万円未満が 170 品目、1000 円以上～5000 円未満が 168 品目、2 万円以上～5 万円未満が 114 品目、1 万円以上～2 万円未満が 105 品目、1 億円以上～10 億円未満が 100 品目と高価格帯、中価格帯の品目数が多い。

NO の輸出価格帯別輸出金額は、100 万円以上～1000 万円未満が 11 兆 5165 億円と NO の輸出金額の 37.5％を占め、最大の輸出規模になっている。次に 1000 円未満の 5 兆 9200 億円（NO の輸出に占める割合で 19.3％）、1000 円以上～5000 円未満の 1 兆 8601 億円（14.5％）、1000 万円以上～1 億円円未満が 2 兆 5054 億円（10％）。NO の輸出は、比較的、輸出単価が高い価格帯での輸出が大きい。

以上のように KG と NO の輸出を価格帯別に比較すると、KG の輸出は、総じて輸出単価が低い分、数量の拡大で稼ぐ品目が多く、単価を引き上げることより、数量の拡大で輸出額が大きくなる、これを数量指向型と呼ぶ。その代表的な業種は、鉄鋼や化学品である。しかし、NO の輸出品が品目数金額とも大きい機械機器でも、電気機器や輸送機器の部品は数量指向型である。

電気機器の部品輸出は、輸出価格帯別でみると、1000 円未満が多数を占めている（表－3）。他方、輸送機器の部品輸出は、自動車用部品を中心に輸出単価で 1000 円以上から 5000 円未満が中心となっている（表－4）。自動車用部品の輸出単価は電子部品より高い。その理由としては、販売数量の違いや製品の標準化が進んでいることなどが指摘できる。電子部品は一般市場でも流通して、市場取引の量が大きい。標準化が進み競争が激しい。半導体はパソコンやスマートフォン、デジタル家電など販売台数が数千万台から億単位で必要量が大きい。最終製品のプロダクトサイクルが短く、携帯電話やスマートフォン等モデルチェンジの期間も短い。一方、自動車用部品は新車向けや特定車種向けに販売され、電子部品と比べて必要とされる量も少ない。

http://www.iti.or.jp/

表－３　半導体等電子部品輸出金額・数量・単価（2009，2013 年）

	単位	輸出金額(million)		数量		単価（円）	
		2009	2013	2009	2013	2009	2013
		3,414,344	3,545,618				
テレビジョン用陰極線管　カラーテレビ	NO	187	199	2,581	625	72,465	317,910
テレビジョン用陰極線管　モノクロ	NO	24	3	427	16	55,398	185,875
ダイオード ー　その他　1W未満	NO	40,833	38,621	8,973,333,401	6,783,513,721	5	6
ダイオード ー実装していないもの	THS	23,591	32,356	65,373,612	73,761,586	361	439
トランジスタ　その他1W未満	NO	23,620	24,112	5,748,726,500	4,258,867,243	4	6
トランジスタ　実装していないもの1W未満	THS	26,575	28,713	40,743,567	40,402,500	652	711
トランジスタ　その他　1W以上	NO	48,635	51,578	2,401,671,224	1,645,951,548	20	31
トランジスタ　実装していないもの　1W以上	THS	46,537	50,858	5,842,778	5,437,869	7,965	9,353
サイリスタ、ダイアック、トライアック	NO	6,968	7,689	217,234,322	229,008,847	32	34
光電性半導体デバイス　その他	NO	375,410	366,279	16,106,208,974	24,893,609,593	23	15
光電性半導体デバイス　発光ダイオード	THS	60,531	94,901	14,682,640	20,057,211	4,123	4,732
その他の半導体デバイス	NO	17,875	12,697	1,803,005,208	2,514,887,454	10	5
圧電結晶素子	NO	114,609	125,976	8,528,568,927	14,257,270,017	13	9
プロセッサ及びコントローラ	NO	566,261	494,792	6,312,686,652	5,379,941,075	90	92
記憶素子	NO	699,579	898,865	5,074,662,542	5,734,517,909	138	157
増幅器	NO	80,438	52,597	2,699,074,276	2,431,669,293	30	22
増幅器　その他のもの	NO	923,067	985,124	31,824,107,853	44,833,163,408	29	22
集積回路の部分品	KG	289,361	203,026	8,286,830	6,701,251	34,918	30,297

資料：表－1 に同じ

表－４　自動車部品輸出金額・数量・単価（2009，2013 年）

	単位	金額(100万円)		数量		単価	
		2009	2013	2009	2013	2009	2013
内燃機関（50cc以下　87類車両用）	NO	312	81	41,887	11,748	7,457	6,898
内燃機関（50cc～250cc　87類車両用）	NO	2,218	242	33,373	5,322	66,476	45,417
内燃機関（シリンダー容積が250cc～1000cc以下）	NO	15,118	31,558	183,187	373,281	82,529	84,543
内燃機関（シリンダー容積が1000cc超のもの　二輪車用）	NO	245,560	241,268	2,225,603	2,213,132	110,334	109,017
車体　（乗用自動車用）	NO	1,353	15,821	4,544	8,991	297,751	1,759,607
車体　（乗用自動車用を除く）	NO	7,500	15,294	48,063	42,275	156,044	361,766
バンパー　部分品	KG	32,681	40,515	24,203,340	24,689,969	1,350	1,641
シートベルト	KG	4,040	3,426	2,341,670	1,756,995	1,725	1,950
車体・その他部分品及び附属品	KG	279,079	346,632	341,228,797	388,312,240	818	893
ブレーキ及びサーボブレーキ並びにこれらの部品	KG	156,853	176,292	130,948,896	149,723,865	1,198	1,177
ギヤボックス及びその部分品	KG	923,371	1,580,690	600,359,890	953,381,313	1,538	1,658
駆動軸　（差動装置を有するもの）及び非駆動軸並びにこれらの部品	KG	107,508	248,316	154,976,307	260,438,926	694	953
車輪及びその部分品・附属品	KG	30,247	44,088	74,671,685	93,911,255	405	469
懸架装置及びその部分品（ショックアブソーバーを含む）	KG	75,638	119,673	110,463,435	150,188,104	685	797
ラジエーター及びその部分品	KG	14,751	22,556	9,953,818	12,653,839	1,482	1,783
消音装置（マフラー）及び排気管並びにこれらの部分品	KG	31,567	33,460	23,481,182	24,556,000	1,344	1,363
クラッチ及びその部分品	KG	69,044	89,130	61,819,573	77,866,535	1,117	1,145
ハンドル、ステアリングコラム及びステアリングボックス並びにこれらの部分品	KG	97,605	152,915	61,596,004	89,363,758	1,585	1,711
安全エアバック（インフレーターシステムを有するものに限る）及びその部分品安全エアバック（インフレーターシステムを有するものに限る）及びその部分品	KG	27,704	36,681	15,687,959	26,339,132	1,766	1,393
部分品及び附属品　その他のもの	KG	449,980	550,703	483,946,224	531,470,569	930	1,036
	総計	2,572,132	3,749,340				

資料：表－1 に同じ

表－５　自動車輸出金額・数量・単価（1995，2013 年）

	輸出金額（100万円）		数量（NC）		単価（円）	
	1995	2013	1995	2013	1995	2013
輸出合計	3,699,235	8,833,735	2,970,559	4,896,569	1,245,299	1,804,066
乗用車　1000cc以下	21,652	26,673	45,563	71,233	475,221	374,446
乗用車　1000から1500cc	650,812	658,237	785,257	798,369	828,788	824,477
乗用車　1500cc以上	2,266,351	4,718,535	1,599,216	2,870,530	1,417,164	1,643,785
乗用車　3000cc以上	453,852	2,560,532	169,032	766,931	2,685,004	3,338,674
乗用車ディーゼルエンジン	937	5,163	1,687	3,806	555,153	1,356,663
商用車　1500から2500Cc	107,086	440,862	115,930	219,723	923,713	2,006,443
商用車　2500Cc以上	146,263	395,192	78,610	137,324	1,860,621	2,877,809

資料：表－1 に同じ

NO の輸出は、自動車や一般機械を中心に輸出単価が高い品目が多く、数量とともに輸出単価が輸出金額に影響を及ぼす価格指向型の輸出といえよう。自動車は、1000 万円未満の輸出の主力は乗用車の輸出である。乗用車の輸出価格は、排気量に応じて異なる。排気量が大きくなるほど輸出価格は高くなる。日本の乗用車輸出は、排気量のより大きな車種の輸出を拡大させることで輸出単価を上昇させている。

輸出単価がより高い価格帯にシフトしている業種は、一般機械や精密機械でも起こっている。一般機械では、工作機械、繊維機械、食品加工機器などの輸出単価が 1000 万円以上を超えている。

輸出単価が高いから価格指向、輸出価格が低いから数量指向ということではない。数量指向と価格指向の違いは、量の拡大を目指すのか、価格を重視するのかという点にある。半導体等電子部品や機械部品の輸出単価は小さく、これらの品目は、輸出数量の規模によって輸出金額が左右される。単価が高価格帯になれば、数量の拡大は大きく望めないため価格を引き上げて収益力を高めることが重要となる。

輸出が数量指向なのか価格指向なのかは、当該産業が置かれている市

http://www.iti.or.jp/

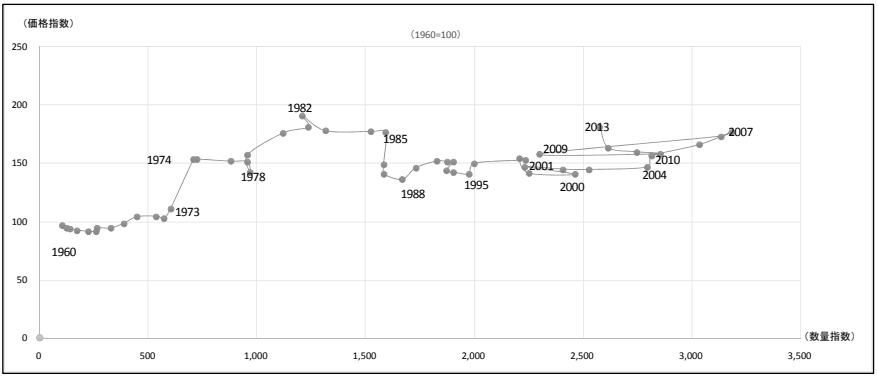
場環境（市場における競合状況など）や産業の特性（規模の利益を享受できるかどうか）あるいは企業の製品開発能力に依存する。数量指向の輸出は、輸出価格が国際市況価格に影響される業種に多く見られる。汎用性の高い製品や製品差別化が難しい製品も数量指向的輸出になりがちである。輸出価格設定を price taker として受けとめている企業は数量指向的になりやすい。

他方、価格重視の輸出は、逆に自社の製品が競合他社と差別化できる業種・企業、自らが価格を提示できる price maker の企業は価格指向的な行動をとれる。

2013 年は数量指向から価格指向への転換年？

日本の輸出は、量の拡大を目指していたのか、価格を重視していたのか。この問いに対する一つの回答が図－6 である。これは、1960 年（基準年）から 2013 年まで、貿易指数（輸出数量指数と円建て輸出価格指数）の動きを見たものである。

図－６　輸出価格（円建て、総合）と輸出数量



資料：財務省貿易統計

日本の輸出数量が前年割れとなったのは、50 年以降では 79 年、82 年、86 年、93 年そして 98 年、2001 年、2009 年、2011 年から 2013 年の 11 回ある。79 年、82 年は第 2 次石油危機不況に当たり世界的な同時不況で輸出が落ち込んだ。86 年は円高時代の幕開け（85 年の 238 円から 86 年は 168 円）となった年で日本の輸出産業が一挙に価格競争力を失った。93 年も円高（92 年の 126 円から 93 年には 111 円）で進行した時期である。98 年は新興国の通貨危機、2001 年は IT バブル崩壊、そしてリーマンショック後の 2011 年から 2013 年まで前年割れの状態が続いている。

円建て輸出価格は、石油危機以降のインフレを背景にして上昇傾向にあったが、86 年の円高を契機に大きく下落、その後緩やかに上昇した。90 年代以降は、乱高下しながらほぼ横ばいで推移し、2005 年から 2007 年にかけて上昇。リーマンショック後の下落後、2011 年から上昇し始めている。

1960 年から 2013 年までの指数の伸びを見ると、円建て輸出価格の水準が 1.8 倍増、同じく輸出数量は 25.8 倍増と数量の伸びが価格の伸びを大きく上回っている。年代別にみると、1960 年代が数量 4.48 倍、価格 1.07 倍、1970 年代は 2.49 倍に対して 1.14 倍、1980 年代は 1.63 倍に対して 0.86 倍、1900 年代は 1.35 倍に対して 0.92 倍、2000 年から 2010 年の間では数量が 1.16 倍、円建て輸出価格は 1.12 倍という倍率である。一貫として、輸出数量が円建て輸出価格を上回って拡大してきている。輸出数量の拡大ペースは、年代を追うごとに逓減しているが、日本の輸出は、これまで数量の拡大を追ってきた。ところが、2010 年から 2013 年では、数量が 0.9 倍、円建て輸出価格は 1.48 倍と数量の伸びがマイナスに陥る一方で円建て輸出価格は上昇している。円安にもかかわらず日本の輸出は伸び悩んでいるが、円建て輸出価格が上昇していることを考えると、円安を利用して数量を伸ばすことよりは、価格を上げることで輸出の収益性の向上を目指している動きという見方もできよう。

注

i　貿易データは GTA 社のデータを使用し

http://www.iti.or.jp/

た。

ii　貿易統計で使用されている数量単位の略号は、CM：立方メートル、CT：カラット、DT：排水トン数、DZ：ダース、GR：グラム、GS：グロス、GT：総トン数、KG：キログラム、KL：キロリットル、L：リットル、M：メートル、MT：トン（Metric Ton）＝1000 キログラム、NO：個、本、枚、頭、羽、匹、台、両、機、隻、着、SM：平方メートル、ST：組（Sets）、TH：千本、千枚、PR：足、対（Pair）、TNO：千個、MNO：百万個

iii　4631 品目のそれぞれの輸出金額を輸出数量で割って輸出平均単価（単価）を算出した。

国際貿易投資研究所ホームページ掲載の貿易統計について

ホームページ「国際比較統計」欄（http://www.iti.or.jp/tradestat.htm）に①国際比較可能な貿易関連指標、②日本、中国、米国の貿易統計をもとにした国連財別分類（BEC 分類）の貿易額を掲載しています。

前者の指標として、世界各国の①輸出額、②輸入額、③輸出単価指数、④輸入単価指数、⑤輸出数量指数、⑥輸入数量指数、⑦通関収支尻、⑧財別収支尻、⑨輸出額の対 GDP 比、⑩輸入額の対 GDP 比、⑪貿易総額の対 GDP 比を、比較できる形式の表で掲載しています。

後者は、国連の BEC 分類（Broad Economic Categories Classification）に各国の通関統計を組み替えたものです。BEC 分類は「素材」「中間財」「最終財」に大別しているのが特徴です。このため、日本の自動車関連品目の貿易を、自動車部品の中間財と、完成品として自動車を分けて把握することができます。

ホームページでは、日本、米国。中国の貿易統計をもとに、①対世界、②対日本。③対米国、④対中国、⑤対 ASEAN、⑥対 EU の輸出入の表を掲載しています。